

## □特徴ある大学院新設研究分野紹介□

# 医療の一翼を担うナースプラクティショナー養成を目指して —医療福祉学研究科 保健医療学専攻 ナースプラクティショナー養成分野 開設—

湯沢 八江\*

### I. ナースプラクティショナーとは

ナースプラクティショナーとは自律して、または医師と協働して診断・治療等の医療行為の一部を実施することができる看護職をいい、主に大学院修士課程で養成される。

このようなナースプラクティショナーが米国では現在約137,000人おり、医師がいない地域の医療や外来での継続治療を支えている。ナースプラクティショナーの養成は1965年に米国のコロラド大学の看護系大学院から始まった。

当時、米国は医師不足から看護師の積極的な関わりを求めていた。また看護の側では大学教育が拡大し、医療の提供に積極的に関わりたいとする看護師も増えてきていた。

### II. わが国におけるナースプラクティショナー養成の動き

日本でも今、同じような状況がある。米国でナースプラクティショナーが誕生して約40年の時を経、ついに日本でもナースプラクティショナーの養成が始まった。日本の先駆的な看護師たちは今までも米国のナースプラクティショナーの動きを文献等で把握はしていた。また、世界各国では数年前からナースプラクティショナーと同じような職種が養成され、医療提供の一翼を担ってきた(OECD 2004)。それにもかかわらず、いろいろ理由はあっただろうが、今日まで日本ではナースプラクティショナーを養成しようという動きはなか

なか生まれてはこなかった。

日本でナースプラクティショナー養成の先陣を切ったのは大分県立看護科学大学である。そこは大分県の強力な支援を得、2008年4月から第一期生の養成をはじめた。

本学は来年度からの開設を予定しており、日本では第2校目となる。大分県立看護大学の取り組みがマスコミ等で注目されたことから、現在全国的に関心が高まってきている。

本学以外にも養成コースの開設を検討している大学院が出てきており、146の病院を束ねる国立病院機構でもA学校法人と連携して2010年後からナースプラクティショナーを養成するという。

現在ナースプラクティショナー養成を進めていこうとする大学院数校で連絡会を持っており、今後この連絡会で日本語の呼称を決め、カリキュラムやナースプラクティショナーの業務モデルを作っていくことにしている。

### III. 本学でのナースプラクティショナー養成分野開設の経緯とねらい

新分野の開設の準備として、我々は9月に米国を視察し、ニューヨークで開業している日本人のナースプラクティショナーに会った。彼女は日本で働いていた経験と比較し「日本の看護師は能力を発揮できる場面があまりにも少ない、これは病院で大多数を占める看護職の資源が有効活用されないことであり、社会的な費用として、もった

\*国際医療福祉大学大学院 教授

いないのではないかと語っていた。

まさに彼女の言葉こそ、我々がナースプラクティショナーの養成を行いたいと思った最大の理由である。

米国でもその始まりは先駆的な医師と少数の看護師達だった (Kahn, Wirth 1978)。少数の看護師たちはまず看護師内部からの抵抗を受けている。医師よりも看護職内部からの抵抗が強かった。日本でもそうである。医師にも反対者はいるだろうが、今一番、我々にエネルギーを与えてくれるのは先駆的な医師たちである。ナースプラクティショナー実現のために動いてくれる医師達が日本にも大勢いる。これらの状況も全てナースプラクティショナーが誕生したときの40数年前の米国と似ている。

米国のナースプラクティショナーは、ほぼ独立して患者の診察を行い、検査や薬のオーダーを出し、保険者に認められて医療の提供を行っている。独立といっても必ずしも開業しているわけではなく、病院にあって、処置や投薬のオーダーを出し、入院患者の疾患管理に責任を持っているナースプラクティショナーもいる。そのような人材を養成し、医師に過大な負担がかかっている状況を少しでも緩和し、医療の提供体制を充実させることで患者の健康回復に貢献できればと考えている。

#### 文献

- J.Buchan, L.Calman, 2004, Skill-Mix and Policy Change in the Health Workforce: Nurses in Advanced Roles, OECD Health Working Papers (17)
- Lawrence Kahn, Patricia Wirth, 1978, Part4: Perceptions and Expectations of Physician Supervisors, Nurse Practitioner, 3(1), 27-31